

4.砂漠化対処条約のキーワード

国際政治の側面から見て、砂漠化問題には、次のような要素が関わっている。これらの持つ意味合いについてまず検討してみる必要がある。

- ・地球環境問題
- ・持続可能な開発
- ・科学技術と国家主権
- ・資金
- ・国際環境交渉の過程
- ・アフリカ問題

「地球環境問題」については、我が国において砂漠化問題がその一部として取り扱われているし、また、世界的にも「地球環境」の問題と絡めて砂漠化問題が議論されることがあるので、その事情について調べ、その妥当性等を検証してみる必要がある。「持続可能な開発」については、その実現と絡めた規定が条文中に繰り返されており、また、砂漠化問題は、「持続可能な開発」の実現を目指した「アジェンダ 21」の章の一つにもなっているから、その内容等について検証してみる必要がある。この条約では、かつてのトップダウンのアプローチを、NGO の役割をも認めたボトムアップのアプローチに明確に変更している。そのことにより、科学技術と主権の関係が大きく変わっているので、その実態を明確にすることが望まれる。砂漠化対策の成否の重要な要因の一つは常に資金問題であった一方、条約の実施に関しても、資金問題を巡って南北が鋭く対立した。その事情を探る必要がある。これと関連して、条約にも明記されている援助等の国際調整についても可能性を探る必要がある。更に、条約を巡る国際交渉の過程を探ること、また、条約の表題にもある「特にアフリカ」ということについて、その事情を探っておくことも重要である。

そのほか、以上の背景にある、1997 年度の外交青書のテーマともなった近年の「複合的相互依存」の深まった国際社会の状況についても理解しておく必要がある。しかし、これについては、次の 3 点を理解しておけば、砂漠化問題との関係では十分であろう。即ち、第 1 に、複合的相互依存は、軍事力の行使をちらつかせることのないような状況の国々の間で典型的に見られる状況であること。そのため、東西冷戦の終焉は、複合的相互依存の状況を大きく拡大した。第 2 に、砂漠化条約との関係においては、複合的相互依存の深化とは、軍事力以外の多様な力学の重要性が高まる状況ではあるものの、直ちに国家間の友好的関係をもたらすものではなく、むしろ、課題毎に国家間の力が異なることを利用した力学による摩擦が頻繁に生じること。なお、複合的相互依存の関係は、基本的に、軍事的対立のない国々の間で深まるものであるため、ここで生じる摩擦も、軍事的な緊張を伴うようなものとは異なる。第 3 に、国家間の関係において、外務省の役割に対して、課題の多様化に応じた様々な国内官庁の役割が高まり、また、NGO、企業等の役割が国家機関の役割に対して相対的に高まり、全体として、多様な主体が、多様な役割を果たすこと。(Keohane and Nye, 1989)